

巻頭言『今後の日本医療と国際医療のあり方』

理事 亀田 佳一

「厚生労働省が再編統合が必要な424の公的病院を公表」、「健保連が『#このままだと健康保険なくなる説』を実施」、「厚生労働省が『人生会議』のPRで大炎上」。2019年にメディアを騒がせた医療関係の話題です。後ろ2つは悪い意味で騒がれた感が強いですが、一般の方々が日本医療の危機的状況を知るよい機会になったと思っています。危機的状況とは少子高齢化と財源不足のため、現状の医療供給体制の継続が困難な状況です。

国際リハビリ研究会のニュースレターなのに、こいつは何を関係ないことを書いているんだと思われるかもしれません。でも「今後の日本医療」を考えずして「今後の国際医療」を考えることはできないですね。日本医療が潰れてしまえば国際医療も何もあったもんじゃありません。写真に映っているカンボジアの医療者たちに助けられる日が来ないよう、今後の国際医療のあり方を考えたいと思います。



特集

「国際リハビリテーション研究会第3回学術大会～世界の多様性に貢献するリハビリテーション～」開催報告

第3回学術大会をふり返って

今年度で第3回目となった学術大会も2019年11月に無事に終わることができました。今回も運営に関わらせていただきましたが、グローバル化や少子高齢化といった近年のソーシャル・イシューとそれに伴う変化の中で、研究会で扱うテーマの幅も広がっていることを実感する機会となりました。

内容をふり返ると、演題発表では南米や中央アジアでの障害と開発に関する活動報告、研究動向についての口述発表が行われました。また、今回は初めて外国人介護士の人材育成をテーマとしたセッションを行うなど、新しいテーマについても議論することができました。シンポ

ジウムでは初めての試みとして、複数の障害当事者の方にも登壇いただき、これまでにない視から国際リハビリテーションについて意見交換を行うことができました。参加者の皆様には学術大会テーマである「世界の多様性に貢献するリハビリテーション」の通り、私たちが貢献できるフィールドの広さを感じて頂けたのではないのでしょうか。私自身も参加者の皆様との議論を通じ、まだまだ未知の領域が広がっていることを再認識する機会となりました。

さて、2020年11月に開催される、次回の第4回学術大会は福岡県での開催となります。次回はどんな領域に足をふみ入れていくのか、非常に楽しみです。
(石井 清志)

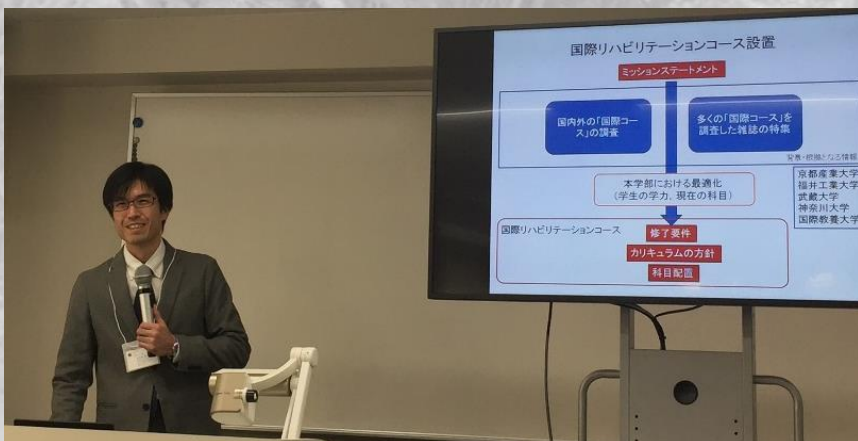


リハビリテーション領域における国際教育とは

私は現在、国際リハビリテーション教育に携わっています。そのこともあり、第3回学術大会のシンポジウムで本学の取り組みを発表する機会をいただきました。シンポジウムでは、国際医療福祉大学の取り組み、看護領域の国際教育の現状を拝聴することができ、また活発なディスカッションから、非常に多くの学びを得ることができました。一方で大きな課題を認識することになりました。リハビリテーション領域における国際教育とは何か、ということです。セラピスト養成課程においてこれからの時代、国際リハビリテーションの何をどこまで学ぶのか、そもそもどのような力を身に付けることが必要なのか、そのためのカリキュラムどうするのか、など適切な設定が望まれます。近年の社会情勢の変化は大きく、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の改正もあり、学生は多くのことを学ばなければなりません。限られた

時間の中で効果的に教育を進めるためにも、養成校は教育内容に工夫が必要です。先行きの不安定で多様化が進む複雑な社会において、どのような状況でも、自ら考え行動し、他者と協力することなど、自律する力の獲得が望まれます。国際教育に取り組むことは、現代に生きる学生に必ず役立つことだと考えます。

(根地嶋 誠)



青年海外協力隊としての活動報告を振り返って

2019年11月9日に国際リハビリテーション研究会で、JOCVでの活動報告をさせて頂きました。初めは、「こんな内容で発表しても大丈夫だろうか」と思っていたのですが、河野先生に背中を押して頂き今回の発表に至りました。

私が活動していた国は、南米のパラグアイ共和国です。パラグアイは日本人の移住の歴史があり、とても親しみやすい国でした。活動先のミンガグアス市の方々も優しく、地元の一員と



して受け入れてくれました。

今回の発表を通して、活動中は当たり前のように思っていたことや気付かなかったことをまとめることができ、これからの仕事や研究に繋げていけると感じました。特に、同僚や地域の人々とのコミュニケーションの仕方や協働することの難しさを知ることが出来ました。言葉の違い以上に文化の違いや物事に対する考え方の違いで思い通り

いかない活動もありましたが、現地で共に過ごした仲間達が助けてくれました。また、国際協力をする上で理学療法の技術だけでなく、クリニックの運営や養成校のカリキュラムなどの知識も身につけなければいけないと感じました。

今後は、この経験を生かして職務や研究に取り組んでいきたいと思います。（長田 真弥）

学術大会での報告を通して

私たちは、国際医療保健学実習の一環として実際にミャンマーに渡航しました。今回、国際リハビリテーション研究会第3回学術大会にて、研修での学びとPCM手法を用いたプロジェクトについて報告させていただきました。

帰国後のプロジェクトに関する議論でもそれぞれの視点からミャンマーの現状や課題について考え、発表に向けて全員で集まり練習を繰り返しました。当日は大変緊張しましたが、聴講していただいた方々が温かな目で見て下さり、無事に発表を終えることができました。また様々な意見や質問を受け、さらに理解を深めることができました。実際に国際協力の現場で活躍している方の発表を聞くことで、途上国での活動にさらに興味が湧きました。

また、学術大会終了後に行われた懇親会では、青年海外協力隊での活動内容や臨床での取り組みなど、普段聞くことができないようなお話を伺うことで、新しく見聞を広げることができ、とても有意義な時間となりました。

このような機会を設けて頂き、多くの経験ができたことに関しまして、先生方には厚く感謝を申し上げます。今回の学術大会を通じて得た経験や学びをこれからの学修に繋げていきたいと思います。



国際医療福祉大学
成田保健医療学部
作業療法学科3年

越川 七海
鈴木 仁
須藤 由佳里
田中 南帆
平井 翔一朗
南沢 希和

お知らせ

【当研究会が日本作業療法士協会のSIGとして認定されました！】

OTの皆様は当研究会のイベントに参加することで生涯教育ポイント獲得が可能となります。

詳細は今後の案内をご覧ください。

【国際リハビリテーションセミナー2020・第3回通常総会開催】

次年度も6月頃に東京で開催します。詳細は追ってご連絡いたします。

コラム 大室和也の「せかいのめがね」

～佐賀編3～

事務局担当の大室理事は佐賀を拠点に世界中で活動を展開中です。このコラムではそんな大室理事のメガネを通した世界の姿を毎号お届けします。

2020年を迎えました。本年も国際リハビリテーション研究会をどうぞよろしくお願いいたします▼今年、年末年始に読んだ本のひとつ、「差別はいつ悪質になるのか（法政大学出版局）」のご紹介から始めます。「差別はその対象を貶価（へんか）したときに悪質になる」というのがこの本の主旨。貶価とは聞き慣れない言葉ですが、蔑むこと、平等に扱わないことという意味です。社会でみられる様々な事例を通じ、上記の結論を補強していくのですが、その途中、差別の社会的意義、平等論、合理的差別、代替指標等々多くのテーマを取り上げます。すっかりしらない、何度も行ったり来たりと読み返すような本、おせちや雑煮で楽しんだ年末年始にはちょっと「お腹いっぱい…」になる本でした。2月の連休ぐらいたが、読むのにちょうどいいかもしれません。ぜひ▼さて、国外に関わらず国内においても、国際リハに関わる方であれば、差別は非常に身近な問題だと思います。障害に関する周囲の偏見や態度が悪質な差別を生み、その結果、当事者が適切なサービスにたどり着けないといった事例をよく経験するかと思います。社会が障害をつくり出しているという認識と大きく重なるところがあります。社会へのアプローチの重要性を一層強く感じた一冊でした▼明日から、ザンビア、パキスタン、バングラデシュと出

張ってきます。どんなことが起こるのか、どんな方に会えるのか、楽しみで震えています。そういった話もしていきたいと思っています。

(2020年1月6日執筆)



佐賀インターナショナルバルーンフェスタは佐賀県最大規模のイベント。今秋ぜひ遊びに来てください。

2019年11月撮影 ©福岡NGOネットワーク

編集後記

本号では第3回学術大会を大きく特集しました。短いプログラムではありましたが多岐に渡る内容であり、有意義な時間を過ごすことができました。本号を編集しながら参加者の皆さんの熱い議論を思い出していました。そのような学術大会での議論からヒントを得て、次号以降の内容を編集担当者間で検討しています。皆さんにとって興味深く有意義なニュースとなりますよう引き続き務めます。 (高橋 恵里)

【研究会FaceBook】 <https://www.facebook.com/pages/category/Nonprofit-Organization/> 国際リハビリテーション研究会-1951070205159667/

【お問い合わせ】 国際リハビリテーション研究会事務局 jsir.office@gmail.com

